

健康教室

みなさんはストレスや不規則な生活などで胃が痛くなったという経験はありませんか？何か悪い病気かもしれないと思って数年ぶりに胃の検査をうけたところ、異常なしと言われてひと安心。胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの場合は、空腹時にみ

ぞおちが痛むという典型的な症状が見られませんが、色々な胃の症状は検査しても明らかでないことが多く、神経性胃炎など、言わば「機能的な病気」ということになります。逆に、症状がないから胃は大丈夫、と考える人も少なくないようですが、それはちょっと考えもので「器質的な病気」例えばポリープや初期の胃がん、リン

パ腫、肉腫などは症状がありません。

もちろん定期的に検査をうけていけば、そういうものは事前に発見でき、大事に至らないですみますが、何十年も検査をうけず、悪性の病気が進行して症状が出てきて、受診した時にはもう末期だっ

胃病とヘリコバクター・ピロリ

大隈 医院

院長 大隈 健 司

若松区宮丸二丁目16-3

た、ということもありま

す。ところで、ヘリコバクター・ピロリ菌というのをご存じですか。ピロリ菌というのは、二十年近く前にオーストラリアで発見された細菌で、胃の粘膜に生存して胃炎や胃潰瘍をひきおこすと言われています。もちろんス

トレンスや暴飲暴食などに伴う胃酸の異常分泌で胃が荒れるという従来の説は否定できませんが、日本の成人のピロリ菌感染率が約5割であるのに対し、胃潰瘍の患者では感染率が9割以上にのぼり、ピロリ菌が大きな原因であることがわかって

おり、この菌が存在する上で、なおかつ胃酸過多の状態になると胃炎や胃潰瘍などがおこると考えられています。治療法は従来、胃酸を抑える薬や粘膜防御剤を使ってきましたが、治療を中止すると多くの場合、再発が認められていました。既にアメリカでは国立衛生

研究所（日本で言えば厚生省のようなもの）

はピロリ菌が存在することが判明した潰瘍は、胃薬に加えて数種類の抗生物質による治療（除菌治療）を受けるべきである。という勧告声明を発表し、欧米では除菌治療が一般的に行われています。現在、日本でもさかんに除菌治療が行われ、潰瘍の再発防止に効果を現しています。また、この細菌は長期間感染すると腸上皮化生という胃粘膜の変化が通常より早く起こり、これは胃がんの発生にも大きく関係しています。除菌治療は潰瘍の再発防止のみならず、胃に異常のない人でも胃がんの予防に役立つかもしれない。詳しくは専門医に御相談下さい。